**■科目：母性看護学概論　第１回**

**■テーマ**

母性看護とは何か ― 基盤としての理解

**■目的**

母性看護の定義や目的を理解し、看護学の中における母性看護の意義と役割を説明できるようになる。また、対象となる女性・胎児・新生児・家族の特性や母性看護の歴史的変遷について理解を深める。

**■目標**

1. 母性看護の定義と目的を説明できる。
2. 看護学の中における母性看護の位置づけを理解できる。
3. 母性看護の対象である女性・母・胎児・新生児・家族の特性を理解できる。
4. 母性看護の歴史的背景と、現代におけるウェルネス志向の考え方を説明できる。

**■授業構成**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **時間配分** | **内容** | **指導方法** |
| 15分 | シラバスの説明と授業全体の位置づけ、母性看護学概論の学びの目的を提示し、学生の母性看護に対するイメージを言語化させる | 講義 |
| 20分 | 「母性看護」の定義（学術的定義と実践的視点）および目的（女性・家族・地域社会への貢献）を講義し、日常生活における母性看護の意義について事例を交えて考察する | 講義 |
| 15分 | 看護学全体の中での母性看護の専門性（生命の誕生、女性のライフサイクル支援、家族単位の看護）を説明し、他の看護領域との違いを図式で比較する | 講義 |
| 20分 | 母性看護の対象である「女性・妊産婦・胎児・新生児・家族」それぞれの特性と看護上の視点を整理し、支援の方向性を具体的に解説する | 講義＋問いかけ |
| 15分 | 日本および世界における母性看護の歴史的変遷を解説し、現代におけるウェルネス志向（病気の予防、生活の質の向上、主体的健康管理）の重要性を提示する | 講義 |
| 5分 | 本時の内容を振り返り、キーワードの整理と次回の学習課題（リプロダクティブヘルス・ライツ）を予告する | 講義・共有 |

**第1回：母性看護とは何か ― 基盤としての理解**

**1．母性看護学概論の目的と概要**

**（１）科目の位置づけ**

母性看護学概論は、看護学生が**母性看護における基本的な知識と視点を身につけるための導入的な科目**であり、今後の母性看護実践の基盤を築くものである。

**（２）学ぶべき視点**

この科目では、以下のような視点を中心に学習を進める。

* **女性のライフサイクル**に応じた看護の理解（思春期〜更年期）
* **マタニティサイクル**に伴う身体的・心理的変化への支援（妊娠期・分娩期・産褥期）
* 母性看護の**対象**（女性・妊産婦・胎児・新生児・家族）への多角的理解
* 母性看護の**歴史的背景と現代的意義**の理解
* **ウェルネス志向**に基づく、主体的な健康支援のあり方の理解

**（３）目的**

* 母性看護の**定義・目的・役割**について理解する
* 看護の中における母性看護の**位置づけと特徴**を把握する
* 母性看護の対象となる人々の**特性と支援の方向性**を理解する
* 現代社会における母性看護の**意義や課題**について考察できるようになる

**2．母性看護の定義と目的**

**（１）定義**

母性看護とは、以下のような特徴をもつ看護の一領域である。

* 妊娠・出産・育児など、**女性のライフイベント**に伴う身体的・心理的変化を支援する看護である。
* 母体と胎児・新生児という**二つの生命**を同時に対象とし、その健康と安全を守る。
* 女性個人だけでなく、**家族全体の健康と関係性**にも焦点を当て、支援を行う。
* 思春期から更年期までの**女性のライフサイクル全体**における健康維持・増進を目指す看護である。

※母性看護は「母親に限定された看護」ではなく、女性全体の健康や家族支援も含む広い領域である点が重要である。

**（２）目的**

母性看護の目的は、以下のような複合的支援を通じて、個人・家族・地域の健康と福祉の向上を図ることである。

* **妊娠・出産・育児を安全かつ安心して迎える**ことができるよう、身体的・心理的な支援を行う
* **女性の自己決定権と尊厳**を尊重し、自律的な健康管理や意思決定を支援する
* 妊娠・出産を家族全体の出来事としてとらえ、**家族機能の強化や地域との連携**を通じた支援を行う
* 母体・胎児・新生児をひとつながりの存在としてとらえ、**命の連続性に配慮した看護**を実践する

**3．看護学の中における母性看護の位置づけ**

**（１）看護学における母性看護の役割**

母性看護は、看護学の中でも「ライフサイクル支援」に焦点をあてた領域**であり、特に**生命の誕生や母子の健康に深く関与する。

* 妊娠・出産・育児という人生の重大なイベントを通して、**個人の健康だけでなく、家族や地域社会全体の健康**にも影響を及ぼす
* 母体・胎児・新生児・家族など**多様な対象**に対して、**身体的・心理的・社会的な側面**から支援を行う
* 看護職としての**倫理観や専門性**が強く求められる分野であり、**他職種との連携**も不可欠である

**（２）他の看護分野との比較**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **看護分野** | **主な対象** | **看護の中心的内容** |
| **母性看護** | 女性（妊産婦）、胎児、新生児、家族 | 妊娠・出産・育児を通じた支援、女性の健康支援（思春期～更年期） |
| 小児看護 | 乳児～思春期の子ども | 成長・発達の支援、疾病への対応、家族支援 |
| 成人看護 | 成人（青年～高齢者） | 疾病の予防・治療・回復支援、生活の質の向上 |
| 老年看護 | 高齢者 | 加齢に伴う変化への対応、生活機能維持、終末期支援 |

母性看護は「出生前から新生児期」までという**時間的な特徴**をもちつつ、女性のライフサイクルを通じた健康支援という**生涯的視点**も併せもつ点が特徴である。

**4．母性看護の対象と特性**

母性看護の対象は、「母親」だけに限定されず、**女性を中心とした複数の存在（人）を含む**。それぞれの対象には異なる特性があり、それに応じた看護的支援が求められる。

**■対象とその特性**

|  |  |
| --- | --- |
| **対象** | **特性と看護上の視点** |
| **女性** | - 思春期・性成熟期・更年期など**ライフステージごとの身体的・心理的変化**がある - 月経・妊娠・出産・閉経などに対する**包括的な健康支援**が必要 |
| **妊産婦（妊娠中および出産直後の女性）** | - 妊娠・出産に伴う**身体的・情緒的変化への支援**が不可欠 - 母性の獲得、パートナーとの関係、社会的サポート体制への配慮が求められる |
| **胎児** | - 看護の対象でありながら、**直接的な関わりができない存在** - 母体の健康状態を通して**間接的に支援**する必要がある |
| **新生児** | - 生後まもないため、**生理的特徴や発達的ニーズに応じた観察とケア**が必要 - 母子関係の形成を促す看護的支援が重要 |
| **家族（パートナー、きょうだい、祖父母など）** | - 妊娠・出産・育児を**家族全体の出来事**としてとらえた支援が必要 - 家族機能、育児環境、社会的資源へのアクセスなどへの支援が求められる |

母性看護は、「一人の女性」への看護にとどまらず、その周囲の存在も含めて多面的・多層的に支援する看護である点が重要である。

**5．母性看護の歴史的変遷とウェルネス志向**

**（１）歴史的背景 ― 母性看護の変遷**

母性看護は、社会の変化や医療の進歩とともに、その役割と内容を変化させてきた。以下に、その主な流れを示す。

* **地域に根ざした「産婆」中心の出産支援（戦前～戦後初期）**  
   → 出産は家庭で行われ、地域の中で支援されていた  
   → 妊娠・出産は生活の一部としてとらえられていた
* **医療の発展に伴う病院出産の普及（高度経済成長期以降）**  
   → 安全性の向上とともに、医療機関での出産が主流となった  
   → 助産師・看護師など、**専門職による関与が拡大**
* **家族形態・女性の社会進出に伴う看護の多様化（現代）**  
   → 核家族化や共働き世帯の増加  
   → 看護は身体面だけでなく、**社会的・心理的支援**も含むようになった

**（２）現代における「ウェルネス志向」の母性看護**

近年の母性看護は、単に病気の予防・治療にとどまらず、\*\*個人の持つ健康の力を引き出す支援（＝ウェルネス）\*\*が重視されている。

* **妊娠・出産を「健康なライフイベント」としてとらえる視点**  
   → 病気のケアではなく、「いのちの営み」を肯定的に支える  
   → 妊婦本人が主体的に健康を管理する力を育む支援
* **身体的・精神的・社会的側面を含む包括的な健康支援**  
   → 情緒面の変化やストレスへの理解  
   → パートナーシップ、家族支援、職場・地域とのつながりを支援する看護
* **QOL（生活の質）向上をめざす母性看護**  
   → 単に生存や無事な出産ではなく、「その人らしい妊娠・出産・育児」の実現が目標となる

歴史を知ることは、現代の母性看護の意味と役割を深く理解するうえで重要である。また、「ウェルネス志向」は、今後の母性看護のあり方を考える上での中心的視点となる。

**6．本日のまとめ**

* 母性看護は、女性とその家族のライフイベントを支える重要な領域である
* その対象は女性・胎児・新生児・家族と多岐にわたり、それぞれに応じた支援が必要である
* 現代の母性看護は、ウェルネス志向を基盤とし、個人の尊厳と自己決定を尊重した看護が求められる

**復習ワーク：第１回「母性看護の歴史的変遷とウェルネス志向」**

**【記述問題】**

**問1.** かつての出産支援において、主にどのような支援者が関わり、どのような場所で行われていたか。  
→ 【　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　】

**問2.** 「ウェルネス志向」とは、母性看護においてどのような視点を意味するか。簡潔に説明しなさい。  
→ 【　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　】

**【穴埋め問題】**

**問3.** 高度経済成長期以降、出産の場は家庭から【　　　】へと移行し、専門職の関与が拡大した。

**問4.** 現代の母性看護では、病気の治療よりも【　　　】の維持・増進を目指す支援が重視されている。

**問5.** 母性看護の支援対象には、女性、妊産婦、胎児、新生児、そして【　　　】が含まれる。

**問6.** 「いのちの誕生」を扱う母性看護では、単なる医療的管理ではなく【　　　】な健康支援が求められる。

**【選択問題】**

**問7.** 次のうち、現代の母性看護の特徴として最も適切なものを選びなさい。

A．妊娠・出産はすべて医学的管理下に置くべきである  
B．母親の身体的ケアのみに焦点を当てる  
C．妊娠・出産を自然なライフイベントとして尊重し、主体性を支援する  
D．出産は家庭で行うことが最も安全である

**問8.** 次のうち、母性看護の歴史的変遷について正しい記述はどれか。

A．昔から病院での出産が主流であった  
B．助産師の役割は近年になってなくなってきている  
C．女性の社会進出により、看護の支援内容は多様化した  
D．妊娠・出産は現代では医療的リスクがないと考えられている

**【正誤問題】**

**問9.** 「ウェルネス志向」の母性看護では、母体の健康だけを重視し、精神的側面や家族支援は対象外である。  
（正しい or 誤り）

**問10.** 母性看護は、看護の中でも生命の誕生というプロセスに直接関わる重要な領域である。  
（正しい or 誤り）

**解答**

* **問1：** 地域の産婆が中心となり、家庭で出産が行われていた。
* **問2：** 身体的・精神的・社会的な健康を支援し、主体的な健康管理を促す看護の視点。
* **問3：** 病院
* **問4：** 健康
* **問5：** 家族
* **問6：** 包括的
* **問7：** C
* **問8：** C
* **問9：** 誤り
* **問10：** 正しい

**事例演習：第１回「母性看護の歴史的変遷とウェルネス志向」**

Aさん（28歳・初産婦）は、妊娠32週で産婦人科を受診した。Aさんは妊娠前までフルタイムで働いていたが、妊娠後は体調を理由に退職し、現在は自宅で静養している。妊娠・出産に対する知識はインターネットを中心に得ており、近年の出産傾向として「なるべく自然なかたちで産みたい」「医療に頼りすぎたくない」という思いを持っている。

一方で、Aさんの母親（60代）は、「出産は病院でしっかり管理してもらうのが安心」「昔は産婆さんが来てくれたけど、今は違う」と言い、Aさんの考えに不安を感じている。Aさんは「自分がどんな支援を受けられるのかよくわからない」と不安を抱えており、助産師外来で看護師に相談した。

**〔設問〕**

**問1.** Aさんの希望「自然なかたちで産みたい」という考え方は、母性看護におけるどのような現代的な視点を反映しているか。

**問2.** Aさんの母親の意見にある「昔は産婆さんが来てくれた」という発言は、母性看護のどのような歴史的背景を示しているか。

**問3.** この事例から、母性看護における支援の対象は誰であると考えられるか。

**問4.** Aさんが安心して出産を迎えるために、看護職はどのような支援を行うことが望ましいか。ウェルネス志向の視点を踏まえて答えなさい。

**問5.** 「自然な出産をしたいが、医療も必要なら頼りたい」というAさんの思いを尊重することは、母性看護の目的に照らして適切かどうか。その理由を述べなさい。

**〔解答例〕**

**問1.** ウェルネス志向の視点。妊娠・出産を病気としてではなく、自然な生理現象ととらえ、主体的な健康管理と意思決定を支援するという考え方を反映している。

**問2.** 昔の地域に根ざした助産制度の名残であり、家庭での出産が一般的であった時代の母性看護の姿を示している。医療機関での出産が主流になる以前の歴史的背景である。

**問3.** 妊産婦本人（Aさん）だけでなく、その家族（Aさんの母親）も支援の対象である。妊娠・出産に対する家族の理解や不安にも配慮する必要がある。

**問4.** Aさんの思いや不安を傾聴し、希望に基づいた出産方法について情報提供を行い、主体的な選択を支援することが重要である。また、身体的・心理的・社会的側面を含む包括的な支援が求められる。

**問5.** 適切である。母性看護の目的には、妊娠・出産を安全に迎える支援とともに、女性の自己決定権の尊重が含まれる。Aさんの希望を理解し、必要に応じて医療的支援を柔軟に組み合わせることが、看護の本質に合致する。